第十四回　忠順大賞

（令和元年度）

入賞作品

・応募総数　一五八六首

・久米翠雲先生　選評

小学生の部

豊田市長賞

堤小六年　　早川　由姫

帰省してみんなで食べる手巻ずし

　幸せ巻いてみんなで笑顔

※年末に帰省して、餅つきをしたり、正月にはお雑煮をみなで食べた。手巻きずしを巻いた。特別の美味しさ。「幸せ巻いた」がいい。

豊田市議会議長賞

駒場小二年　　中村　美咲

冬休みおとうとのせわやってみる

　ママのたいへんわかるきがする

※冬休みのある日、弟をみていたらお母さんがおむつ変えてやってと言った。お母さんのまねをしてやった。ふろも手伝った。大変だった。

豊田市教育委員会賞

堤小六年　　石川　凜

友達と過ごした日々は宝物

　もう少しだけいっしょにいたいな

※六年間一緒だった友達たち。遊びや勉強すべてが宝物。もう少し一緒にいたい。分かる！中学では学級は違うかも知れないが、いい友達でね。

中日新聞社賞

駒場小一年　　神谷　美果

さむいけどすみがパチパチあたたかい

　きょうはかぞくでしちりんおもち

※年末に皆でついたお餅。日頃使わない、しちりんで、つきたてのお餅を焼いて食べた。炭のはじける音。火の色。あたたかい。おいしかった。

会長賞　金賞

堤小四年　　柘植　ここみ

おじさんが高いてつぼうさかあがり

　みんなびっくり年をうたがう

※公園で鉄棒をしていたら、よそのおじさんが高い鉄棒で逆上がりを見せてくれた。すごい！若い人じゃないのに。拍手かっさいだね。

会長賞　銀賞

堤小一年　　尾嶋　星音

おねえちゃんどきどきしたね二人たび

　ばあばをみつけほっとえがお

※今までは、両親と一緒に出かけていた。今度はおねえちゃんと二人だけ。乗り換えしてやっと、出迎えの駅で祖母を見つけた。本当にホッと。

会長賞　銅賞

堤小一年　　横川　遥士

おじいちゃんぼくのおなかに

　手をあてた

いたいのなおるミラクルハンド

※おじいちゃんはすごいんだよ。ぼくがね、おなかがいたいといったら、おなかをしずかになでてくれた。そうしたらなおったよ。よかったね。

優秀賞（三名）

堤小一年　　杉本　依千花

わりばしでてっぽう作ってうちあいだ

　わたしどろぼうパパはけいさつ

※わりばしのゴムでっぽうで遊んだ。私はどろぼう。うちの中を走りまわって、ママに叱られた。パパと遊べて、よかったね。

堤小五年　　山田　結彩

さむい冬母があかぎれつらそうに

　料理するすがた毎年同じ

※寒い冬の水仕事は辛い。すぐにあかぎれなどができてしまう。料理をすれば片付けがある。辛そうに頑張っているのを見るのもつらいですね

堤小五年　　杉本　琴望

次出番思うとおりにひけるかな

　きんちょうすると指動かない

※今まで何度も演奏会に出たが、毎回、舞台のそでで待っている時、きんちょうする。指が動かなかったらと。でも大丈夫だったね、いつも。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

中学・一般の部

豊田市長賞

秋葉町　　岩田　美穂

独り身を望みし昔忘れたり
天の夫に帰れと涙
※時には、独りの方がどれほど気楽かしれないと思ったりしたこともある。夫が病で突然亡くなって、はっと思う。すぐ還って、と切ない想いが溢れる。

豊田市議会議長賞
前林中三年　森島　万琳
私のが目線は高くなったけど
変わらぬ母の大きな背中
※愛情に育まれすくすくと育った。今私の目線は母を見下ろすほどに背丈は伸びた。しかし、母が小さいとは思えない。やはり、母の背は高く、広い。

豊田市教育委員会賞
青木町　奥村　良枝
坂道に轢かれし栗の実のにほふ
いのちいくつか拾いて帰る
※栗の木のある坂道。実が熟して道に転がり出た栗の実。車に轢かれ、匂いが周辺に満ちている。（轢かれない）実を拾う。「いのち拾う」がいい。

中日新聞社賞
前林中一年　福田　実桜
心臓音ハッキリ聞こえるその瞬間
最優秀賞みんなの努力
※合唱コンクールの成績発表の静寂と緊張の瞬間を詠んだ。心臓の鼓動が高鳴る。やっと、みんなの努力が実った。喜びの歓声が上がる。嬉しいね。

会長賞　金賞
前林中三年　堀越　未月
寒い中ゆげがきわだつ食卓に
幸せ色をみんなで囲む
※吐く息も白くなる冬。鍋物を囲む一家の温もりが強く感じられる風景である。第二句から食べ頃の鍋の様子が伝わる。「幸せ色を……」の言葉に詩情がある。

会長賞　銀賞
前林中二年　渡辺　智美
反抗し部屋にかけこみ響くドア
心の中ではごめんなさい
※親の言葉に何故か素直になれない自分。反抗期だと言うが、言い返すこともせず自室にこもる。ドアを響かせの三区に思いが、下の句に本心が見える。

会長賞　銅賞
飯野町　伊井　松美
山奥の田は小さくとも家宝なり
放棄ならぬと田植えし息子
※田畑は、雑草が繁茂しすぐに荒れ果てる。そんな中で息子さんが田んぼを「家宝」と考え田植えする、すごいです。自慢の息子さんですね。

優秀賞（三名）
前林中三年　徳永　百花
夏の夜線香花火ちりちりと
笑いとともに光り輝く
※家族の団らんの夏の夜の風物詩。その中でも線香花火は、あの弾ける火花を競い合うこともでき楽しさが増す。火花は可憐で、輝ききるまで楽しめる。

前林中二年　深田　千世
片付ける楽器ケースに傷が付く
努力の数だけ感謝と謝罪
※楽器は自分の身体の一部と思うくらい大切にする。大事に扱うが時には何かにあたり傷がつく。深田さんの楽器への愛着「感謝と謝罪」はすごい。

前林中二年　嘉手納　拓哉
今生きるそれを普通に感じてる
けれどそれこそ幸せなこと
※今の自分の生活を見回してみて、毎日、特別なことがある訳ではない。その自分の生活を突きつめて、これが幸せなんだと感じる感性が素晴らしい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第十四回「忠順大賞」に一五八六首の作品を頂くことができました、
二月一日事務局での一次審査を経て久米翠雲先生による最終審査により以上の二十名の入選者が決定しました。先生には選評も添えていただきました。
事務局での一次審査、緊張する作業でもありますが、心豊かな時間を頂けることです。今年も、学校生活・友だち・家庭でのなんでもない風景から生まれる、幸せ感あふれる作品、思わず笑いを誘うような心温まる人と人との繋がりが伝わってくる様々な短歌にであうことができました。
何度も書き直しながら、丁寧な字で書かれた沢山の応募作品を拝見しておりますと、授業・行事等で大変お忙しい中、指導・協力して頂いています

小・中学校の先生方には感謝しかありません。ありがとうございます。また、地域内外から応募して頂いた大勢のかたに感謝致します。

（事務局　川村）